

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	関市西親子教室		
○保護者評価実施期間	令和7年10月1日		～ 令和7年12月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	75	(回答者数) 64
○従業者評価実施期間	令和7年12月1日		～ 令和7年12月12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月13日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個々の子どもに対してアセスメントを行い、子どもと保護者のニーズや課題に合わせて児童発達支援計画を作成している。	・半年に一回、保護者、担任、児童発達支援管理責任者で面談を行い、児童発達支援計画・経過について話し合いを行っている。 ・面談の前に保護者にモニタリングシートを記入していただき、親子のニーズを確認している。	・面談だけでなく、保護者のニーズに応じて相談する時間を設けたり、面談での保護者の思いを丁寧に聞き取る。 ・子どものニーズや課題を客観的に分析できるようアセスメントを適切に行う。
2	・保護者や家族からの相談の申し入れについて、体制の整備をし迅速かつ適切に対応できるようにしている。	・相談の申し入れがあった場合は、療育時間以外にも話す時間を設けて対応している。 ・担当に限らず必要に応じて児童発達支援管理責任者、相談支援専門員、他の職員などで連携して随時相談を受けている。	・日頃から丁寧に保護者の話を伺う、職員から声をかけるなど相談しやすい関係をつくるよう努める。
3	・親の会活動の支援や保護者同士の交流の場を設けるなど、家族支援を行っている。	・親の会役員会や親の会OB会のサポートを行っている。 ・保護者交流会や学習会など保護者同士が交流できる場、家族で参加できるクリスマス会などの行事を親の会と共催し、実施している。行事を通して、家族同士、きょうだい同士のつながりを生み出している。	・今後も親の会へのサポートを通して、保護者の思いを汲み取りながら行事の企画や共催を行う。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・定期的に通信、ホームページ、連絡システム「すぐーる」で活動内容や行事予定など情報や業務に関する連絡など保護者に発信しているが、全員に周知しきれていない場合がある。	・事業所評価などをホームページに掲載、事業内に掲示、年度始めや療育開始時に説明しているが、内容も細かく閲覧いただけていない場合がある。 ・連絡システム「すぐーる」を使い随時配信を行っているが、閲覧されない保護者もいる。	・掲示物の見やすい掲示の仕方や分かりやすい説明を心がける。 ・年度始めや療育開始時の説明を掲示物など実際に見ながら丁寧に行う。 ・配信内容を見やすく分かりやすい内容となるよう検討しつつ、職員からも直接声をかけ、周知を図る。
2	・事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル、安全対策訓練計画などを作成しているが、周知しきれていない。	・療育開始時に説明し、常に閲覧できるよう教室内に配置しているが、閲覧される方は少ない。 ・防犯訓練や感染症対策訓練など職員のみで行うことがあり、その場合は訓練内容の報告が掲示だけとなるため気付かれにくい。	・療育開始時に各マニュアルについての説明を丁寧に行う。 ・避難訓練実施の際に訓練の報告を兼ねて再度説明する機会を設け、周知を図る。
3	・親の会活動の活動内容を知らない、分からない人がいる。	・就労している保護者が多く、平日の療育時間内に行う親の会役員会への参加者が少なく、固定されたメンバーとなりやすい。 ・行事(クリスマス会、施設見学、保護者交流会)の計画や準備など保護者と職員が一緒に行っているが、親の会の活動として認識されておらず、周知に至っていない。	・親の会役員会への参加がしやすいよう、役員会の開催日時の検討や周知を行う。 ・活動内容のお知らせや掲示を見やすい場所にし、連絡システム「すぐーる」も利用しながら周知に努める。